

Once upon a time in Utsunomiya

一枚の絵葉書から

石井敏夫コレクションより 第33回

女子師範学校と正門を
同じくする第二高等女学校
(戸察時代/
現宇都宮大学附属中)



宇都宮第二高等女学校

「宇都宮高女の入試については、八百名の志望者のうち募集人は僅か二百名で、このため年若き処女が殆ど半狂乱の体にて競争している。宇都宮に第二の高女が必要と思うが」。これは一九二二大正十二年十二月十四日に、高橋元四郎県会議長が山脇春樹知事に提出した「中等教育機関増設に関する意見書」をめぐる審議の中で発せられた質疑である。当時の中等教育機関は、県内にわずか二十二校。進学希望者の急激な増加に応えられる体制にはほど遠かった。特に宇都宮における女子の入学は困難を極め、「高等女学

校を出ていなければ嫁にもらわれない」という世相と相まって、冒頭の発言がなされたものと思われる。

第二高等女学校(現宇都宮中央女子高)の名称が県議会に登場するのは、山脇知事による「中等教育綱」(一九三〇大正十二年七月二十四日)が最初である。これは、前年に提出された「中等学校網設置に関する意見書」に答えたもので、十四校を新設、県立中等学校を三十六校に増設することを骨子にしたものだった。しかし、二三年十一月の県議会で、急を要する今市中学、石橋中学、氏家高女、鹿沼高女四校の開校を優先させることになり、財政的な理由から第二高女の設立は後送りされた。

第二高女の設立が具体化するの是一九二五(大正十四)年十一月に森田利一郎県会議長の名で、大塚惟精知事に提出した意見書によるところが大きい。「県下教育ノ現状ニ鑑ミ宇都宮市ニ高等女学校又ハ女子職業学校ヲ可成速ニ建設シ就学志望者ノ入学難ヲ緩和スル様相当ノ御発案アラムコトヲ望ム」。これにより翌二六年の県議会で、女子師範移転とともに第二高女設立が議決され、移

転改築費として十九万七千円が計上された。場所は塙田(現県総合文化センター)の男子師範学校跡地と決定。女子師範学校内に併置されるという変則的な創立だった。

新入生百六十三人を迎え、開校式と入学式が挙行されたのは、一九二八(昭和三年)四月十三日。初代校長は、女子師範学校長寺内頼が兼任した。ここに修業年限四年、生徒定員六百人の宇都宮第二高等女学校が誕生したのである。



校舎全景。
創立10周年記念絵葉書(戸察時代)



現在の宇都宮中央女子高。
第二高女、宇都宮松原高を経て
1956(昭和31)年設立